

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-344243

(43)Date of publication of application : 12.12.2000

(51)Int.Cl.

B65D 25/20

B65D 51/24

B65D 77/24

(21)Application number : 11-155953

(71)Applicant : ASUBERU KK

(22)Date of filing : 03.06.1999

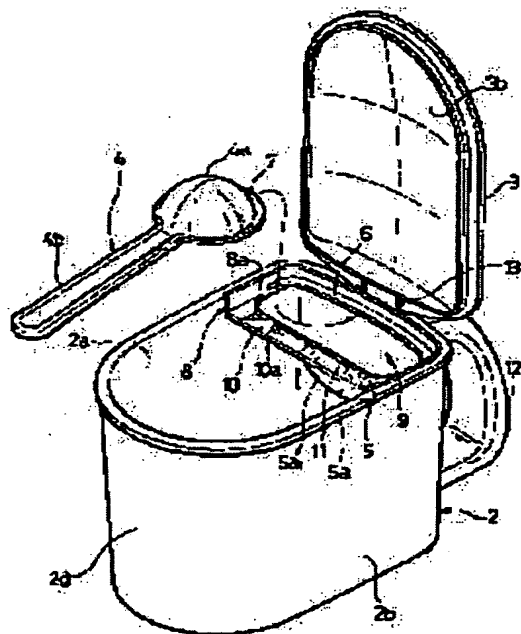
(72)Inventor : IMAI TSUTOMU

(54) CONDIMENT STORAGE CONTAINER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a hygienic condiment storage container conveniently used, enabling an easy holding of a spoon in a container main body and measurement of condiment by using the spoon.

SOLUTION: A leveling part 5 is laterally provided over a pair of opposite side-walls, dose to one side of a container main body 2 from the middle of the opening 2a of the container main body 2. Also, a flange 6 opposed to the leveling part 5 with a space 9 therebetween is disposed at the one side of the container main body 2. An engagement part 7 which engages with the flange 6 is integrally formed at the leading end of the scoop portion 4a of a spoon 4. The engagement part 7 is engaged with the flange 6 with the scoop portion 4a of the spoon 4 faced down, and the intermediate portion thereof is put on the leveling part 5, and the spoon 4 is held on the leveling part 5 substantially horizontally.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

10.05.2006

[Date of sending the examiner's decision of

rejection]

[Kind of final disposal of application other than
the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-344243
(P2000-344243A)

(43) 公開日 平成12年12月12日 (2000. 12. 12)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テ-マコ-ト* (参考)

B 6 5 D 25/20

B 6 5 D 25/20

F 3 E 0 6 2

51/24

51/24

F 3 E 0 6 7

77/24

77/24

3 E 0 8 4

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平11-155953

(22) 出願日 平成11年6月3日 (1999. 6. 3)

(71) 出願人 591011650

アスベル株式会社

奈良県大和郡山市池沢町45-6

(72) 発明者 今井 勲

奈良県大和郡山市池沢町45番地の6 アス
ベル株式会社内

(74) 代理人 100080827

弁理士 石原 勝

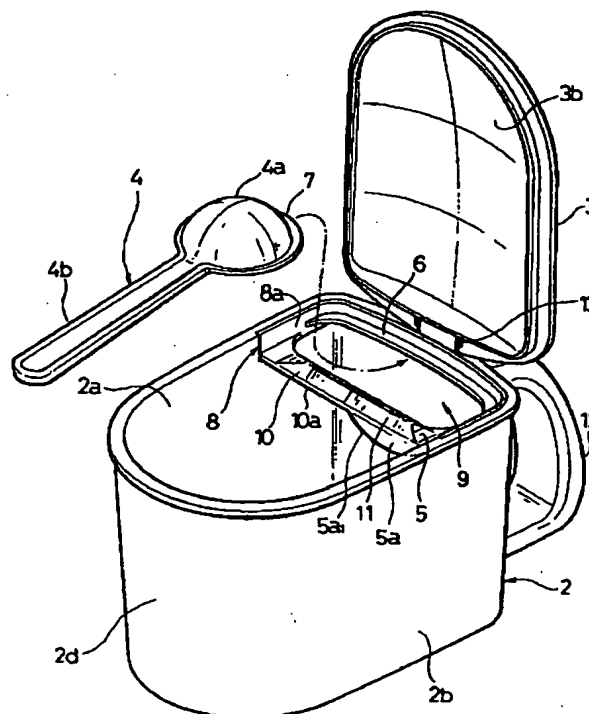
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 調味料収納容器

(57) 【要約】

【課題】 容器本体へのスプーンの収納とスプーンでの調味料の計量とを簡単に行うことのできる、衛生的で使用に便利な調味料収納容器を提供する。

【解決手段】 容器本体2の開口部2aの半分より一側部に寄った位置で対向する両側壁2c、2cに亘ってすり切り部5を横架すると共に、このすり切り部5から空間9を置いて対向するフランジ部6を容器本体2の一側部に配し、スプーン4の掬い部4aの先端に、フランジ部6に係合する係止部7を一体形成し、スプーン4をその掬い部4aを伏せて係止部7をフランジ部6に係合すると共に、その中間部をすり切り部5上に載置することによって、スプーン4がほぼ水平になる状態ですり切り部5上に保持する。



使い勝手も良くなる。その上、すり切り部は前記スプーンの保持と共に本来のすり切り機能を果たすので、別なすり切り棒を用いることなく、簡単に調味料の計量を行うことができる。

【0010】また本発明において、すり切り部とフランジ部を一体に備えたすり切り板を、容器本体の開口部に着脱自在に組付けると好適であり、収納する粉体状の調味料の種類によって、計量が必要でなかったり、使用者がスプーンの保持を特に必要としない場合には、すり切り板を外して通常の調味料収納容器として使い分けすることが可能になり、使用上の選択の幅が広がる。

【0011】更に本発明において、すり切り部の下辺が、ほぼ直線状の標準すり切り量を計量する部分と、下方への突起を有し、標準すり切り量より少量の計量が可能な部分とからなるようにすり切り部を構成すると好適であり、ほぼ直線状の下辺ですり切ることによって、スプーンの掬い部の容積分の調味料つまり標準すり切り量が計量できる一方、突起の突縁ですり切ることによって、標準すり切り量よりも少量、例えば2分の1や3分の1といった定量の計量が可能になるので、すり切り部を有効利用して1つのスプーンで2種類以上の計量を使い分けすることができる。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を図1～図4を参照して説明する。

【0013】本実施形態の調味料収納容器は、砂糖、塩、小麦粉等の粉体状の調味料1を収納する把手12の付いた箱型の透明なプラスチック製の容器本体2に、容器本体2の開口部2aを閉蓋する蓋体3とからなり、一定量の容積を備えた掬い部4aと柄部4bとからなるスプーン4がセットされている。容器本体2の側壁2c(図2)には把手12が取付けられ、それに対向する側壁2dは曲面状に形成されている。蓋体3は、側壁2cの上端に設けられたヒンジ13を介して90°余り回転自在に容器本体2の一側部に枢支され、操作辺3a(図2)により開閉操作される。

【0014】容器本体2の開口部2aの把手12側には、後述するすり切り部5によるスプーン4の保持と調味料1の出し入れを考慮して、開口部2aの開口面積の半分以下を占めるようにすり切り板8が配置されている。すり切り板8は、その下辺の一部を垂下させた突起5aを有するすり切り部5と、このすり切り部5から空間9を置いて対向するフランジ部6とを備え、外周壁8aを開口部2aに設けられた段部2a₁に係止することによって容器本体2に上部に固定される。すり切り部5は、対向する側壁2b、2bの上部に亘って横架され、フランジ部6は側壁2cの上部内周に突出するように設けられる。またすり切り部5は、ほぼ直線状の下辺10aを有する第1すり切り部10と、突起5aの突縁5a₁が円弧状の下辺を形成する第2すり切り部11とで構

成される。

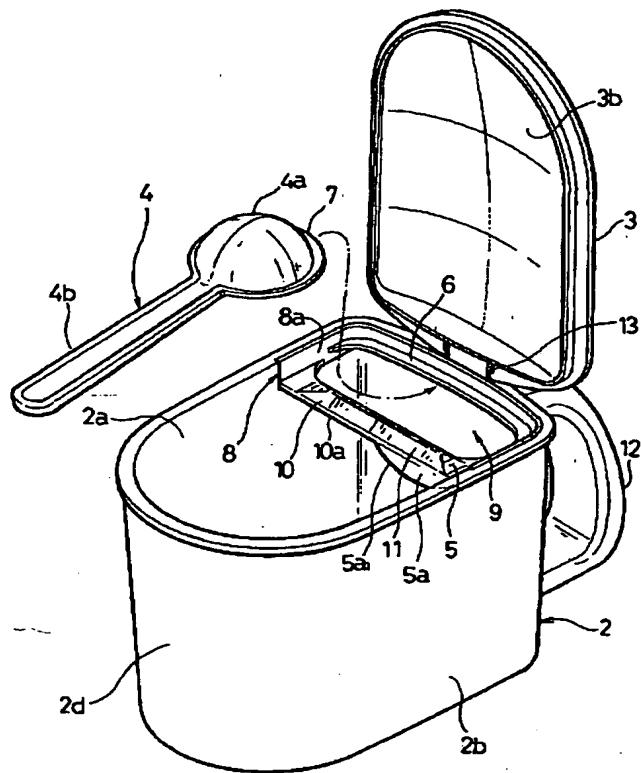
【0015】上記すり切り板8はすり切り部5とフランジ部6を一体に備え、容器本体2の開口部2aに着脱自在に組付けられるので、収納する調味料1の種類によって計量が必要でなかったり、使用者がスプーンの保持を特に必要としない場合には、すり切り板8を外して通常の調味料収納容器として使い分けすることが可能である。尚、フランジ部6をすり切り板8の一部として構成せずに容器本体2側に一体形成しても良く、その場合はすりきり部5を着脱自在なすり切り棒として構成すると好適である。

【0016】スプーン4は、水平な柄部4bとボウル状の掬い部4aとからなる。掬い部4aの口縁前方には、前記フランジ部6に係合する鈎状の係止部7が設けられている。このフランジ部6と係止部7が係合してスプーン4をすり切り部5上に保持可能な状態にできる限り、それらの形状は上記実施形態に示す形状に限定されない。

【0017】掬い部4aは標準すり切り量、例えば大さじ1杯分の調味料を計量可能な容積を備えた形状に形成されている。このスプーン4を使用する場合、図4に示すように、すり切り部5のうち第1すり切り部10の下辺10aで1回すり切ると、掬い部4aの容積分の調味料つまり「おおさじ1杯分」が計量できる。一方、第2すり切り部11の下辺をなす突起5aの突縁5a₁ですり切ることによって、標準すり切り量の2分の1つまり「おおさじ半分」が計量できる。この突起5aの大きさを小さくして3分の1の計量を行えるように構成すれば、丁度「小さじ1杯分」が計量でき、1つのスプーンで大さじと小さじの計量が可能になって使用に便利である。また突起5aの数を増やして第2、第3のすり切り部を形成することによって、1つのすり切り部5を有効利用して複数種の計量を使い分けすることもできる。

【0018】上記実施形態において、調味料1をスプーン4で計量して使用したい場合には、掬い部4aで調味料1を掬い取った後、掬い部4aに調味料1を盛り上げたまま、図3に矢印Aで示すように、先端(係止部7)を容器本体2のフランジ部6へ向けて、掬い部4aの中間部を第1すり切り部10の下辺10aに当接させた状態で、柄部4bをやや斜め上方に移動させていく。すると、下辺10aと掬い部4aの口縁がすれ合うことで掬い部4a上に盛り上がっていた余分な調味料1がすり切り落とされ、スプーン4の先端が矢印Bで示すようにしてすり切り部5から離れるときには、掬い部4a内に標準すり切り量つまり本実施形態では大さじ1杯分の計量(図4の左側)がなされた調味料1が残る。そして必要量や掬い部4aの容積(例えば大さじ、小さじの量)に応じて、同じ作業を繰り返す。またすり切り量の2分の1の計量をしたい場合にも同様にして、図3に示す仮想線のように第2すり切り部11の下辺(突縁5a₁)

【図1】



【図2】

